

ラベルニュース

東京都ラベル印刷協同組合

☎111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

No388

平成 29 年 3 月号

編集:広報・情報システム委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

全日シール連合会

第 1 回技術優良工場 23 社を認定 優秀な技術者の排出と業界 の活性化を図ること目的に

全日本シール印刷協同組合連合会(田中浩一会長)は、どのメリットを享受できる昨年四月十八日開催の同理事会にて、平成二十八年度事業の一つとして、「技術優良工場」認定制度の創設を承認したが、このほど「第一回技術優良工場」二十三社を認定しました。

同制度は組合員が認定を受けることによって自社工場の技術を広くPRして客

1. 目的

① 優秀な技術者を輩出するとともにその技術を用いて製作された製品の普及を推進するために、「技術優良工場」の指定をして業界の活性化を図る。

② 技術優良工場の指定によってアウトサイダーとの「差別化」を図りその「ステータス」を確立する。

③ 技術優良工場の指定によって地域のリーダーシップとモチベーションの向上を図る。

2. 選定方法

第二十六回シールラベルコンテストにおいて、一定の基準をクリアした作品製作会社を全国の技術委員が認めて選出した結果、次の二十三社が認定されました。

■ 技術優良工場は次の通

- ▼(株)シモクニ (北海道)
 - ▼北海道シールリング(株) (北海道)
 - ▼精英堂印刷(株) (東北)
 - ▼進和ラベル印刷(株) (東北)
 - ▼三協タックラベル(株) (東北)
 - ▼(株)タカラ (東京正札)
 - ▼三協シール印刷三鷹工場 (東京正札)
 - ▼(株)タカヨシ (東京正札)
 - ▼シール産業(株) (東京正札)
 - ▼山梨(株)シール印刷 (東京正札)
 - ▼サトーインプレス(株) (東京正札)
 - ▼(株)サンメック (東京ラベル)
 - ▼(株)三共シール (東海北陸)
 - ▼(株)京都シールレーベル(京都)
 - ▼ミラクル工業(株) (大阪)
 - ▼(株)丸紀印刷 (大阪)
 - ▼谷口シール印刷(株) (大阪)
 - ▼(株)丸信 (九州)
 - ▼(株)創美 (九州)
 - ▼(株)宝珠印刷 (九州)
 - ▼元屋印刷(株) (九州)
 - ▼九州クラフト印刷(株) (九州)
 - ▼サトープリンティン(株) (協力工場(有)みちのく印刷) (九州)
- これらの「技術優良工場」は平成二十九年一月一日から平成三〇年十二月三十一日までの特典等が付与され、更に活用して頂きます。
- ① 認定工場専用ネームプレートとの付与
- ② 認定工場専用マークの付与
- ③ 認定工場専用マークの使用許可
- ④ 連合会ホームページで紹介
- ⑤ 認定工場一覧
- ⑥ 認定工場専用サイトを作成
- ⑦ 業界紙に「優秀技術認定工場」指定制度の創設についてリリースしてPRする
- ⑧ 全国会員名簿に記載して表示する

全日シール連合会が主催
オンデマンドセミナーに七〇名が
メーカー四社が各社の特徴PR

全日本シール印刷協同組合連合会(田中浩一会長)主催の「オンデマンドセミナー」が二月九日(木)午後一時より、飯田橋の「左官工業組合ビル会議室」で開催され、組合員など約七十名が参加しました。

このところオンデマンド印刷機の動きが活発化しているが、まだシール印刷業

界には普及しているとは言いが、何が普及の障害になっているのかをメーカーから直接聞きたいと参加する人も多かった。

初めに山下庫太技術委員長が「オンデマンド印刷機、デジタルプリンターはまだいろいろな課題があることも事実ですが、今日ここで実際に説明を聞いて今後の参考にしていただければ」と挨拶しました。

まだ普及しているとは言いが、各社の説明でも海外と比較して、日本市場にはまったくとこのからというのが一致した意見でした。

機械本体が高い、メンテナンス料やランニングコストの高さも障害になり、日本固有の市場には受け入れにくいというハードルをクリアできていないのが現状。

ただ、熟練のオペレーターが要らない、版が不要、色合わせがし易いなどの特徴があり、すでに導入した業者の声を紹介したケースでも「ネット受注の中で取りこぼしていた極小ロットに対応できる」「朝注文を受けて夕方には納品できそう」「オフセット並みの印刷品質で刷れる」「作業工程が分かりやすく、使いやすい」

「今後はイベント用小ロット対応、可変情報シールなどをPRしていく」などの意見が多かった。

機械本体が高い、メンテナンス料やランニングコストの高さも障害になり、日本固有の市場には受け入れにくいというハードルをクリアできていないのが現状。

紙に制約があり、どんな紙でも使用出来るわけではなかった。結局は活用できずに終わってしまったケースも少なくなかったわけです。

今回参加した四社は、いざいざもこうした過去の反省点を踏まえて、新たにデジタル印刷機をシール印刷業界に売り込んでいこうという意欲は感じられたが、現実の問題として、まだまだ解決しなければならぬ課題が多いことも認めている。

当日は三條機械が「SGP-300」、メディアテクノロジージャパンが「Truepress JetL250AQ」

「TruepressJET350UV」、コニカミノルタが「biz hub PRESS C71ef」、ザイコンジャパンが「XAIIKON3020」

「オフセット並みの印刷品質で刷れる」「作業工程が分かりやすく、使いやすい」

「今後はイベント用小ロット対応、可変情報シールなどをPRしていく」などの意見が多かった。

説明会は午後五時に終了



盛り上がったオンデマンド印刷機の説明会

説明しました。

オンデマンド印刷機、デジタルプリンターは世界的にはかなりの普及率を見せ

説明しました。

オンデマンド印刷機、デジタルプリンターは世界的にはかなりの普及率を見せ

「オフセット並みの印刷品質で刷れる」「作業工程が分かりやすく、使いやすい」

「今後はイベント用小ロット対応、可変情報シールなどをPRしていく」などの意見が多かった。

説明会は午後五時に終了

彩の国ビジネスアリーナ

サン技研が初めて出展

二月一日、二日にさいたまスーパーアリーナで「彩の国ビジネスアリーナ二〇一七」が開催され、ここに日高市商工会 工業部会を通じて、当組合員の(有)サン技研が初出展しました。

彩の国ビジネスアリーナ二〇一七は、「未来を創る技術・製品・サービスの彩典」をスローガンに、中小企業の受注確保・販路開拓、技術力向上等を目的とし、広域的な企業間ネットワーク形成による新たなビジネスチャンス創出の場を提供する展示商談会として毎年開催されています。

出展企業は様々な業種、大学、航空宇宙やロボットなど六〇〇社を超え、入場者は二日間で一万七千人を超え、盛況のうちに幕を閉じました。

今回初めて出展したサン技研の本堂社長は「いつもは見ると側だったのが展示する側へと挑戦してみたのですが、準備をして臨んだつ

もりが、まだまだ準備が足りなかったと痛感しました。

ただ単に製品のラベルを置いておいても、欲しがる人はほとんどいませんでした。もっと実用的なラベルや、その場でプリンター等で作成できるものを用意すれば、もっと人を集客できたのではないかと思えます。その中で話ができればもう少しいい方向に進むのではないかと感じました。

今年思ったほどの成果は上がりませんでした。来年は今年の反省を活かすばもっと上手く出展できると思います。成果はすぐにはでないので少しずつ良くしていきたいと思えます」と語っていました。



第26回ラベルコンテスト 作品集が好評発売中！ 希望者は早めに申込みを

全日本シール印刷協同組合連合会では「第二十六回シールラベルコンテスト応募全作品集」(A四クリアファイルに応募全作品の実物を貼付・印刷データシート付)が完成し、頒布を開始しました(60冊限定頒布)。

本作品集は、今年の第二十六回シールラベルコンテストに応募された全作品を網羅して、作品製作に際しての使用の印刷機械メーカー・使用インキ・使用原紙材料銘柄などの他、作品の用途・機能・製作秘話などが記載されています。

また、前回の第二十五回シールラベルコンテストの応募作品の中から、第二十

七回世界ラベルコンテストの二十二カテゴリーに対してJFLPより選んでエントリーした作品の中から、二〇一六年二月十二日発表の第二十七回世界ラベルコンテスト「最優秀賞」作品六作品、「審査員特別賞」二作品(JFLP分)、二〇一六年九月発表の「ベストオブザベスト」二作品の世界ナンバー1(世界コンテストの最優秀賞の中から印刷方式別の5部門から更に絞って選出したJFLP分)も合わせて掲載しています。この他コンテストの総評・所感を掲載しています。(山下技術委員長談)

価格は一部二万四千元(税・送料込み)購入ご希望の方は、別紙申込書にてお早目にお申し込み下さいますようお願い申し上げます。また、バックナンバーの作品集も在庫がある分は別途特別価格にて頒布致します。

こちらをご購入ご希望の方は、在庫確認のため全日本シール印刷協同組合連合会事務局(TEL03-5812-5717)へお問い合わせ下さい。

「ご存知ですか？」

モノのインターネット「IoT」が世界をどう動かすか

最近、IoT (Internet of Things) という言葉が大きな注目を集めるようになりました。IDC Japan

によれば、日本国内のIoT市場だけで、六兆二二三二億円 (二〇一五年) にもなり、さらに二〇二〇年には十三兆七五九億円で拡大するとの見通しもあります。「アナログな企業だから」IoTすら上手く活用できていない」と、IoT

とは無縁だと思っている企業や業界も含め、今後IoTによって劇的に変化していくと考えられるのです。

■ IoT を簡単に言うと
「IoT」は、Internet of Things の略で、モノにセンサーが組み込まれて直接ネットに繋がり、直接通信できるような仕組みのことで、キーワードは、「モノ」、「センサー」、「インターネット」です。

分かり易く言うと、「モノ」に「センサー」が組み

込まれて、自動で「ネット」に繋がりアクションを「モノ」が起こす仕組みです。一例をあげます。

「メガネ」に「センサー」が組み込まれ・・・眼鏡の動きなどから眠気や疲れを感知してお知らせしてくれる。

「冷蔵庫」に「センサー」が組み込まれ・・・足りない食材をお知らせしてくれる。

これは、あくまで分かり易く説明する為の一例で、正直魅力を感じないかもしれません。また、IoTを

活かしたビジネスモデルや商品・サービスのアイデアはまだ画期的なものがなく、逆に斬新なアイデアを出せば、革命を起こすことが出来ます。あなたの身の回りにあるIoT製品について考えてみましょう。非常に身近なモノでIoT化されているものがあります、わかりませんでしょうか。

それは「スマートフォン」です。

「ガラケー」と呼ばれていた携帯電話をネットにつながることで、携帯電話のさらなる可能性を創り出したのです。「スマート〇〇」と呼ばれるものはほとんどがIoTです。とされています。

■ IoTの具体的な事例や登場しそうなものは

IOTでインターネットとあらゆるモノがつながり、様々なイノベーションが起こることは、確実と言われていきますし、メリットは何となく分かると思います。具体的にどういったイノベーションが可能なのか

いくつか例を挙げます。まず、わかりやすくインフラの世界です。これからはあらゆるインフラ、例えば、ビル、工場、道路、橋、下水道といった設備に適切なセンサーや制御デバイスを設置することで設備更新のタイミングや修理状況などの把握能力が格段にあが

り、管理がし易くなります。また、運輸業界において

もあらゆる運搬物にセンサーが付与され、インターネットで管理することでロジスティクス品質と効率を向上し、運用コストを下げることが出来ます。

また、工場での生産においてもあらゆるパーツにIPアドレスやセンサーが付与されることによって、出荷後のデータを把握することも可能となり、歩留まり率改善、さらには次期商品開発への貴重なデータを取ることが出来ます。

家庭でもあらゆる家電品がインターネットとつながることにより利便性も高まります。いずれにせよ、これから必要とされるIPアドレスは膨大になり、そのIoTを制御するためのクラウドシステムの複雑化することが想定されます。

《参考資料》

<http://www.ccllogou.com/>

■様々な医療機関

ひと口に医療機関と惟つても、呼び名、規模、役割も実にさまざまです。医療機関は、まず「病院」と地域で「医院」「クリニック」とうたっているものが診療所です。

No136 健康がいちばん!

病気の時の病院選びは?

かかりつけ医持つこと大事

「センター」とも呼ばれ、国立がんセンター、国立循環器病センターなどは、「国立」だったのですが、二〇一〇年四月から、各センターは独立行政法人化しました。

独立行政法人化後は、各センターの名称に「研究」の字句が挿入され、国立精神・神経センターには「医療」の字句も加えられました。これら各センターの総称にも「国立高度専門医療研究センター」と、「研究」の字句が加えられました。

■病院と診療所

先ほども少し触れましたが、医療機関は「病院」と「診療所」の2つに大別されます。「病院」を名乗るには、入院用のベッドを二〇床以上もち、医師が常時いて、一日二十四時間患者に対応できる体制になっていることが条件づけられています。

病院も個人名を関した小規模の民間病院（私的病院ともいう）もあれば、公的病院もあります。公的病院の代表格だった国立病院も機構改革が進み、正確には独立行政法人国立病院機構が運営しています。

国立高度専門医療センターは通称「ナショナルセ

診療所は医師である院長1人と、受付事務などを兼ねた看護師が2〜3人いるというのが、ごく一般的なスタイルです。

診療所のうち、入院用のベッドをもっている、いわゆる有床診療所は全体の4分の1程度で、あとは外来患者を中心にする、時には訪問診療も行うという、ベッドをもたない無床診療所です。外来患者はあまり受けられないで訪問診療中心の診療所も、徐々に増えていきます。高齢社会を反映して、寝たきり患者などを中心に在宅医療を支援しようというものです。

診療所は、その設備やスタッフなど法に定められた設置要件ゆえに、診療科目については内科だけ、小児科だけ、あるいは皮膚科だけというように、単科を標榜する所がほとんどです。もちろん複数科目を標榜する診療所もないわけではありません。その場合は、「内科・小児科」「外科・整形外科」というように、お

これに対し、入院用のベッド数がゼロ（無床）か、あっても十九床以下のところが「診療所」です。医院、クリニックという看板を掲げているいわゆる開業医は、互いに関連する診療科に限らずべて診療所に含まれます。られていくというのが一般

的ですが。しかし日本の場合、医師免許さえあれば自由に診療科目を標榜できるので、時に1人の医師が内科、小児科、外科、皮膚科、放射線科……と多くの診療科の看板を出しているケースもあります。ひとつの診療科をきわめるのは大変なことです。「このようなケースは疑問視せざるを得ません。診療所で扱われるのは、通院治療だけで十分コントロールできる程度の、比較的軽症の病気が中心となります。

別の言葉で言えば、診療所はプライマリ・ケアを担います。プライマリ・ケアとは、医療行為のなかで初期の段階を受け持つ医療といえます。病気のふるい分けも大切な仕事で、難しい病気や長期入院を要する重症患者については、患者個々の病状に見合った医療機関を選んで紹介することになります。普段からかかりつけ医を持つことが大事になってきます。

《引用資料》

<http://medical.itp.ne.jp/b>

youki/930201001/

丸伸製作所(京都市山科区西野山射庭ノ上町三〇七)〇七五―五八三―五一―五 森幸夫社長)では、このほど吐き出し用スポンジ「レバルスリッチ」を発売したが、各方面で好評を博している。

この「レバルスリッチ」は、刃型の跳ね出しに使用される吐き出し用スポンジで、高反発でありながら低硬度が特徴。

「レバルスリッチ」を発売した際には、刃型からラベ

ルを押し返し、ラベルが刃に貼りつくのを抑止するもの。これまでの従来品は硬度が高く、機能させるには抜き圧を下げる必要があり、長期保存すると固くなるという難点があった。

このレバルスリッチは、硬度を低減しながら落下したボールが跳ね上がるほどの高い反発性を持ち、従来品よりも低い抜き圧で効力を発揮するので、糊の浸み出しを抑制する構造となっている。

さらに長期間保存しても硬くなりなく、経年変化に強い高耐久性で、在庫の廃棄ロスを大幅に低減できるとしている。

仕様は次の通り。

▼厚み 三・〇〇mm ▼サイズ 九五〇×一二〇〇mm

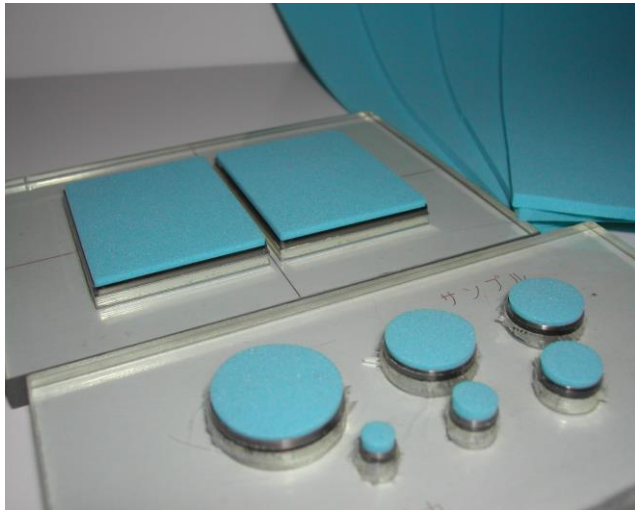
▼硬度 二二〇(C) ▼色 シスカイブルー ▼用途 シ

ール印刷用抜き型に最適

厚みは三・〇〇mmの他にも二・〇〇mmがあり、それ以外にも特注で製造できるので相談。

「レバルスリッチ」を発売好評価

高反発でありながら低硬度
吐き出し用スポンジ 糊の浸み出し軽減



特徴としては、従来品よりも①高反発で②長期間保管しても、固くならない③低コスト④柔らかい設計のため糊の浸み出しを軽減する抜き圧軽減など。シール印刷業者の中には抜き型についてあまり意識